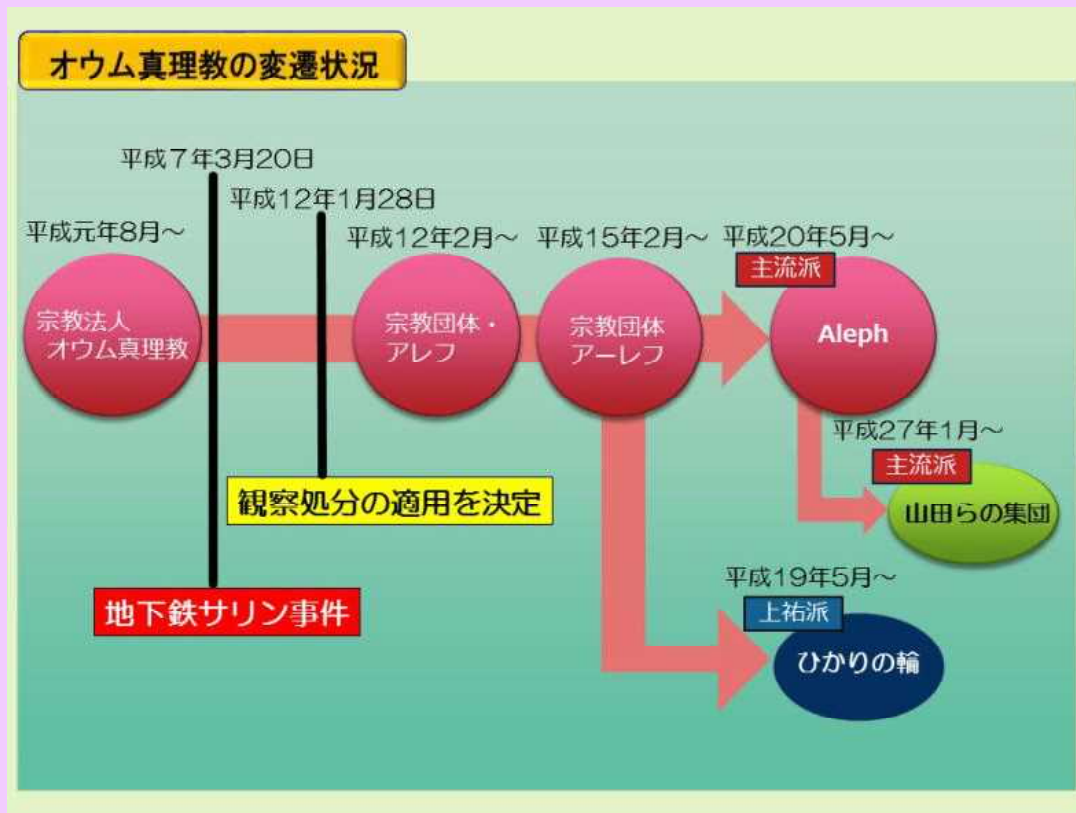


オウム真理教は現在

1 オウム真理教の変遷

教団は、名称を変えたり、複数の集団に分かれるなどして、現在も活動が続いています。



2 現在の活動状況

主流派

—「Aleph」—

平成30(2018)年7月に行われた麻原らの死刑執行後も、引き続き麻原に対する絶対的帰依を示しています。

麻原の写真を祭壇に掲出

- 「Aleph」の祭壇には、麻原らの死刑執行後も、引き続き麻原の写真が掲出されており、施設の中には、祭壇に麻原が好きな果物を供えているところもあります。

※ 例:新保木間施設(東京)

<平成29(2017)年4月(死刑執行前)>



<平成30(2018)年7月(死刑執行後)>



現在も事件当時と同じ修行を実施

- 現在も、修行において、「パーフェクト・サーヴェーション・イニシエーション」(PSI)と呼ばれる、“麻原の脳波データを注入する”とされる修行用器具を使用(※)しています。

※ 下写真の点線内の電極付きヘッドギアを頭部に装着して使用



きたこしがや
北越谷施設(埼玉)に対する立入検査
で確認した「PSI」(平成30年7月)

- 現在も、修行の一環として、麻原が「奇跡的な聖水」と位置付けた、「甘露水^{かんろすい}」と呼ばれ“高次元のエネルギーが満ち溢れた聖水”とされる水を飲用しています。



やしおおおぜ
八潮大瀬施設(埼玉)に対する立入検査で確認した
「甘露水」のタンク(平成30年7月)

麻原への帰依心を植え付けるため、子供向けの教材を使用



立入検査で確認した児童向けの「かるた」

「Aleph」は、教団名を隠しながら、若い世代を対象として、積極的に勧誘活動を行っています。

<勧誘活動の主な流れ>

第1段階

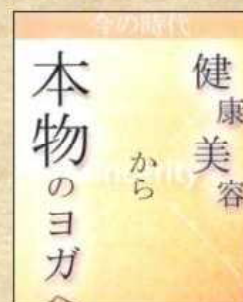
- 信徒らが、主に若い世代を対象として、教団名を秘匿し、宗教色を感じさせない形で接触

例：イベント開催

(ヨーガ、占い、食事会など)

街頭や書店での声掛け

SNS (ソーシャル・ネット
ワーキング・サービス) に
よる交流

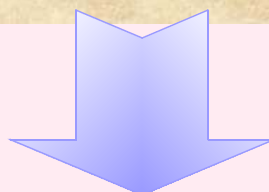


教団が作成したイベント案内のビラ



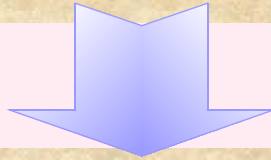
書店で声をかけている様子

- その中で、宗教やヨーガ、精神世界などに興味を持つ者(＝勧誘対象者)を、教団名を秘匿したヨーガ教室や勉強会に勧誘



第2段階

- ヨーガ教室などでは、信徒が指導などを行いながら、勧誘対象者との**人間関係を構築**
- また、麻原の名前を出さずにその教えを解説したり、「**地下鉄サリン事件などは教団以外の者による陰謀である**」などと説明しながら、**勧誘対象者の教団に対する抵抗感を払拭**



第3段階

- 勧誘対象者の教団に対する抵抗感を低下させた上で、**教団名を明かして入会へと誘導**

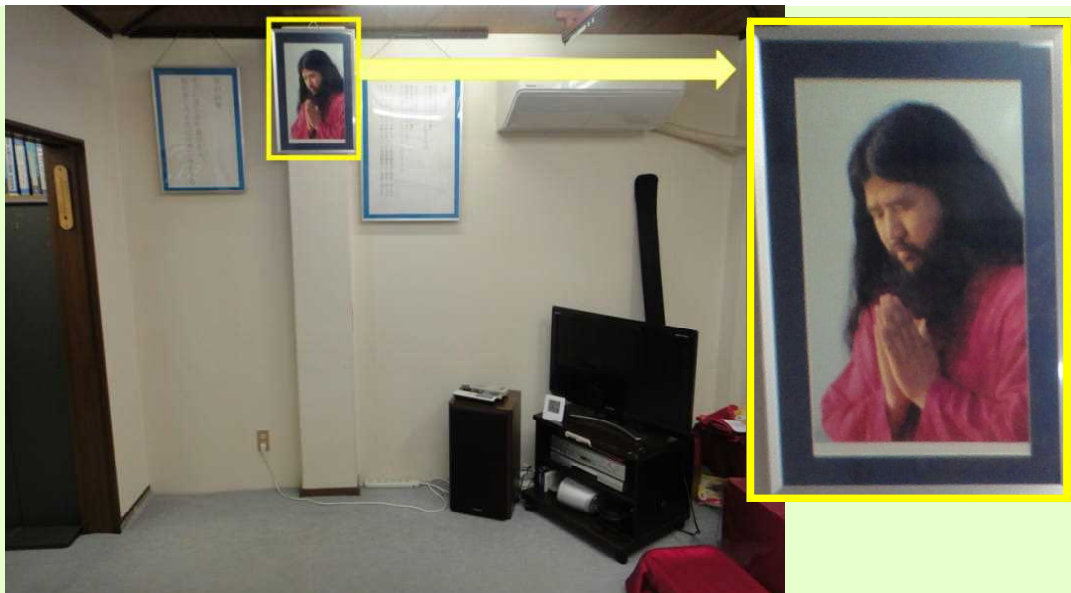
ー「山田らの集団」ー

- 「山田らの集団」は、平成27(2015)年1月以降、「Aleph」から距離を置いて活動を開始しました。

麻原らの死刑執行後も、「Aleph」と同様に、引き続き麻原に対する絶対的帰依を示しています。



金沢施設(石川)に対する立入検査で確認した
「Aleph」と同様の祭壇(平成30年7月)



金沢施設(石川)に対する立入検査で確認した
道場内に掲出された麻原の写真(平成30年7月)

上祐派

—「ひかりの輪」—

- 「ひかりの輪」は、平成19(2007)年5月、上祐史浩が、組織の存続を求めた麻原の意思に従って設立した組織です。
- 施設内に麻原と関係があるとする仏画を掲示しているほか、「聖地巡り」と称する修行などを実施しています。



「聖地巡り」(※)における瞑想儀式(平成29年6月)

※ 「聖地巡り」とは、上祐が聖地と定めた神社仏閣などを訪問する修行であり、かつて“麻原ゆかりの地”と位置付けた神社などを訪問しています。